

製品名: LIGHT ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13305**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	

抗原情報

遺伝子名	TNFSF14
別名	TNFSF14; HVEM-L; LIGHT; Tumor necrosis factor ligand superfamily member 14; Herpes virus entry mediator ligand; HVEM-L; Herpesvirus entry mediator ligand; CD antigen CD258
遺伝子 ID	8740.0
SwissProt ID	O43557
免疫原	抗血清はヒト TNF14 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

背景

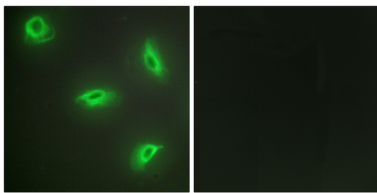
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、腫瘍壊死因子 (TNF) リガンドファミリーのメンバーです。このタンパク質は、腫瘍

壊死因子受容体スーパーファミリーのメンバーであり、ヘルペスウイルス侵入メディエーター (HVEM) としても知られる TNFRSF14 のリガンドです。このタンパク質は、リンパ球細胞の活性化のための共刺激因子として、またヘルペスウイルス感染の抑制力として機能する可能性があります。このタンパク質は、T細胞の増殖を刺激し、様々な腫瘍細胞のアポトーシスを誘発することが示されている。また、このタンパク質は、初代培養肝細胞において腫瘍壊死因子 α を介したアポトーシスを阻害するとも報告されています。異なるアイソフォームをコードする 2 つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: TNFRSF3/LTBR に結合するサイトカイン。デコイ受容体 TNFRSF6B への結合により、その効果が調節されます。NF κ B を活性化し、T細胞の増殖を刺激し、腺癌 HT-29 の増殖を阻害する。単純ヘルペスウイルスの受容体として作用する。誘導: T細胞の活性化後に発現が上昇する。、PTM: N-グリコシル化されている。、PTM: 可溶性アイソフォーム 1 は、膜型アイソフォームからタンパク質分解によって生成される。、類似性: 腫瘍壊死因子ファミリーに属する。、サブユニット: ホモ三量体。、組織特異性: 主に脾臓で発現するが、脳にも存在する。末梢リンパ組織、心臓、胎盤、肝臓、肺、虫垂、腎臓では弱い発現が認められ、胎児組織、内分泌腺、非造血系腫瘍株では発現が認められない。、

研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;

画像データ



TNF14 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。